

平成27年度事業報告書

I	事業の実施概要.....	1
	(1) 助成事業.....	1
	(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～.....	2
	(3) 制作者フォーラムの開催.....	4
	(4) 8Kシンポジウムの開催.....	4
	(5) 定期刊行物の刊行.....	5
	(6) ホームページの運営.....	5
	(7) マイナンバー制度への対応.....	5
	(8) 資産運用検討委員会の開催.....	5
II	処務の概要.....	6
	(1) 役員、評議員等に関する事項.....	6
	(2) 理事会および評議員会に関する事項.....	9
III	附属明細書（資料1～4）	11

平成27年度事業報告書

I 事業の実施概要

放送と通信の連携・融合に象徴されるメディア環境の変化、視聴者のライフスタイルや価値観の多様化、放送以外の分野へも展開が期待される超高精細映像（8K）の登場など、放送を取り巻く事業環境は大きく変わり続けている。

こうした状況の中で、放送文化基金は、放送文化の発展・向上に寄与すべく、助成事業、表彰事業、制作者支援活動事業の3大基幹事業に加え、衛星放送によるスーパーハイビジョン（4K、8K）の試験放送が28年度に開始されるのを控えて、超高精細映像に関するシンポジウムを開催するなど、計画した事業を全て実施した。

助成事業は、26年度に開始した研究者の裾野拡大のための若手研究者等への助成金の増額を継続した。

表彰事業は、放送文化基金賞贈呈式の会場収容力アップや演出などのクオリティの充実を図ったことで、数多くのメディアにも紹介された。

制作者支援活動事業は、制作者フォーラムを北海道・東北地区と九州・沖縄地区で開催し、地域の放送を支える制作者の育成に寄与した。

また、助成金贈呈式の実施に合わせて、超高精細映像の現状と将来展望をテーマとするシンポジウムを開催し、好評を博した。

（1）助成事業

ア 平成27年度助成

平成27年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の2分野を対象に公募を行った結果115件の申請があり、助成審査委員会の審査、理事会の審議を経て、最終的に45件、5,950万円の助成を決定した。

（助成対象一覧 資料1）

申請および採択結果は、次の通りである。

（単位 万円）

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技術開発	39	9,966	13	2,900
人文社会・文化	76	10,849	32	3,050
合 計	115	20,815	45	5,950

助成金は、26年度より若手研究者奨励500万円を増額しており、今年

度も大学院生や非常勤講師など若手研究者からの応募を広く呼びかけた結果、応募、採択ともに 40 歳以下の申請者の案件が 3 分の 1 にのぼり、昨年に引き続いて若手の頑張りが目立った。

助成金贈呈式は平成 28 年 3 月 4 日にホテルルポール麹町で開催し、目録贈呈式と懇親会を実施した。

目録の贈呈に引き続いて、助成対象者を代表して、技術開発部門の東京藝術大学音楽学部教授の亀川徹氏が『高臨場感音響システムのための簡易收音方式と最適なアップミックス手法の検討』について、人文社会・文化部門の津田塾大学大学院博士課程の河野明佳氏が『アパルトヘイト体制下の南アフリカにおける民族語ラジオ放送の役割 ―解放闘争との関連で―』について、プロジェクトに取り組む抱負を中心に挨拶を行った。

イ 平成 25 年度助成事業の実施報告

平成 27 年 10 月～11 月に開催した其々の審査委員会で、平成 25 年度に助成した技術開発 12 件、人文社会・文化 30 件の実施報告（成果報告・27 年 6 月末締切）について、一件ずつ内容の評価を行った。

（2）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第 41 回放送文化基金賞

平成 26 年度中に放送された優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成 27 年 4 月～5 月に開かれた各部門、各分野の専門委員会と審査委員会を経たのち、理事会で合わせて 28 件を決定した。

（受賞一覧 資料 2）

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番組部門	テレビドキュメンタリー	82	5	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 3
	テレビドラマ	46	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
	テレビエンターテインメント	64	4	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 2
	ラジオ	32	3	最優秀賞 1、優秀賞 1、奨励賞 1
	個別分野	—	5	番組部門受賞作品から選定
個人・グループ部門	放送文化	16	4	—
	放送技術	10	3	—
合 計		250	28	

番組部門の賞金は最優秀賞 100 万円、優秀賞 50 万円、各奨励賞 30 万円、個別分野賞 20 万円。また、個人・グループ部門の賞金は 30 万円。

最優秀賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では『E T V 特集 薬禍の歳月～サリドマイド事件・50 年～』（NHK）、テレビドラマ番組『相棒 season13』（テレビ朝日）、テレビエンターテインメント番組『しくじり先生 俺みたいになるな !!』（テレビ朝日）、ラジオ番組『Y B C ラジオスペシャル 花は咲けども～ある農村フォークグループの 40 年～』（山形放送）である。

個人・グループ部門では、放送文化で 4 件、放送技術で 3 件が受賞した。

基金賞の贈呈式と懇親パーティは、7 月 7 日にホテルオークラ東京で開催した。

イ 他の賞への参加

A B U（アジア太平洋放送連合）番組コンクール、第 42 回日本賞教育コンテンツ国際コンクール、創作ドラマ大賞に参加した。

A B U 番組コンクールの授賞式は、平成 27 年 10 月 30 日にトルコのイスタンブールで行われ、ラジオとテレビのドラマ番組の『F M シアター 真昼の流れ星』NHK／日本、『Three Fish』イラン・イスラム共和国国営放送／イラン・イスラム共和国にそれぞれ賞を贈呈した。

日本賞は、平成 27 年 10 月 22 日に授賞式が行なわれ、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『ルイスとロバの英語教室』（アニマトロポ／コロンビア、マリア・ディアス氏）に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第 41 回（平成 26 年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したナミビア放送協会の『ミーアキャットの冒険』（ナミビア）は、番組として完成し、第 42 回日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

日本放送作家協会と NHK が主催する創作ドラマ大賞について、第 40 回創作テレビドラマ大賞の贈呈式は平成 27 年 11 月 12 日に行われ、大賞の『あなたにドロップキックを』（中谷 典子 氏）に賞金 50 万円を贈呈した。

第 44 回創作ラジオドラマ大賞の贈呈式は平成 28 年 3 月 25 日に行われ、大賞の『佐恵子の話』（湯川 立子 氏）に賞金 50 万円を贈呈した。

（表彰結果 資料 3）

(3) 制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクション等、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に開催している。

平成 27 年度は、2 地区で現地実行委員会と共催し、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるパネルディスカッションや講演会が行われた。

○北日本制作者フォーラム in やまがた（北海道・東北地区）

＜北海道、東北の民放とNHK、計 40 局＞

日 時 平成 27 年 12 月 4 日（金）、5 日（土）

場 所 山形テルサ アプローズ／山形市

参加者 約 160 名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州、沖縄の民放とNHK、計 35 局＞

日 時 平成 27 年 11 月 28 日（土）

場 所 NHK福岡放送局 よかビジョンホール／福岡市

参加者 約 90 名

(4) 8Kシンポジウムの開催

8Kテレビは、平成 28 年に試験放送、30 年に実用放送の開始が計画され、超高精細映像時代の到来は、放送文化の新たな広がりとともに様々な分野への展開が期待されている。

放送文化基金は、有識者からなる「超高精細映像に関する委員会」を設けて、超高精細映像の現状と将来展望について冊子にまとめるとともに、平成 28 年 3 月 4 日にホテルルポール麹町で「8K から ∞ へ ～超高精細映像のゆくえ～」と題するシンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、博物館、医療、ディスプレイ開発、コンテンツ制作など、放送分野以外の関係者から 8K 活用の実態と可能性について報告があり、続いて「超高精細映像に関する委員会」メンバーによるパネルディスカッションを行い、8K 技術の多面的利用への期待や課題などについて活発な議論が展開された。

会場には、平日にも関わらず、プロデューサー、クリエイター、映像技術者など 200 名近くの来場者が詰めかけ、「時代にかなった企画で良かった」など、好意的な感想が多数寄せられた。

(5) 定期刊行物の刊行

平成 27 年 9 月に放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した広報誌「放送文化基金報」No. 83 を刊行。28 年 4 月に助成対象プロジェクトの研究内容の紹介、8 K シンポジウムの開催などを中心とした No. 84 を刊行した。

(6) ホームページの運営

事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開に努めた。

＜日本語版内容＞

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞 WEB 申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物（読む・楽しむ）等

＜英語版内容＞

助成の募集案内、日本賞・ABU賞への参加について 等

(7) マイナンバー制度への対応

平成 27 年 10 月に改正番号法が施行され、社会保障や税関係等の行政手続きに個人番号（マイナンバー）の記載が必要とされたことに伴い、12 月に個人番号を含む個人情報の適切な取扱いについて定める「特定個人情報の取扱いに関する基本方針」および「特定個人情報取扱規程」を策定し、「特定個人情報の取扱いに関する基本方針」をホームページで公開した。

(8) 資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、平成 27 年 9 月と 28 年 1 月に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

青木 昭憲 （大和住銀投信投資顧問(株)執行役員）
柿沼 点 （大和住銀投信投資顧問(株)チーフ・エコノミスト）

森 幸嗣 (大和住銀投信投資顧問(株)国内債券運用部付部長)
松原 克美 (放送文化基金会計顧問・公認会計士)
清水 孝雄 (放送文化基金監事・TBS社友)
竹村 範之 (放送文化基金監事・日本放送協会経営企画局長)
(幹事)
崎元 利樹 (放送文化基金専務理事)

Ⅱ 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員の選任等

(ア) 第13回評議員会(平成27年6月25日)において、全役員の任期が満了となることを受け、次のとおり選任した。

(理事)

末松 安晴 氏 (東京工業大学名誉教授)
藤井 宏昭 氏 (国際交流基金顧問)
箕浦 康子 氏 (お茶の水女子大学名誉教授)
大石 芳野 氏 (写真家、日本大学客員教授)
濱田 純一 氏 (前東京大学総長) 新任
崎元 利樹 氏 (元日本放送協会大阪放送局長)

(監事)

清水 孝雄 氏 (TBS社友)
竹村 範之 氏 (日本放送協会経営企画局長)

(任期は、平成27年6月25日から29年6月の定時評議員会まで)
なお、塩野 宏理事長は、平成27年6月25日付けで退任。

(イ) 理事長及び専務理事の選定

第13回評議員会で理事6名が選任されたのを受け、第25回理事会(平成27年6月25日)を開催して、定款第28条2項に基づき、末松安晴理事が理事長に崎元利樹理事が専務理事に選定された。

(ウ) 理事長、専務理事の報酬について

第13回評議員会において、新しい理事長、専務理事の報酬については現行と同額としたいとの説明を受け、定款第19条第2項(2)に基づき承認した。

イ 評議員の選任

第13回評議員会において、評議員の任期が満了となることを受け、定款第15条に基づき、評議員21名の選任を行なった。

青木 隆典 氏（日本民間放送連盟常務理事）
青木 保 氏（国立新美術館館長）
池辺 晋一郎氏（作曲家）
板野 裕爾 氏（日本放送協会専務理事）
上田 良一 氏（日本放送協会経営委員会委員）
小田島 雄志氏（東京大学名誉教授）
音 好宏 氏（上智大学教授）
加藤 剛 氏（俳優）
マーシャ・クラッカー氏（聖心女子大学教授）
今野 勉 氏（演出家、脚本家）
鈴木 幸一 氏（インターネット・シニアティブ代表取締役会長 CEO）
高島 肇久 氏（海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長）
遠山 敦子 氏（トヨタ財団理事長）
長尾 真 氏（前国立国会図書館長）
中村 桂子 氏（JT生命誌研究館館長）
西條 温 氏（日本ケーブルテレビ連盟理事長）
長谷部 恭男氏（早稲田大学大学院教授） 新任
羽鳥 光俊 氏（東京大学名誉教授）
福地 茂雄 氏（新国立劇場顧問）
向井 千秋 氏（宇宙航空研究開発機構特任参与）
初井 勝人 氏（日本放送協会会長）

（任期は、平成27年6月25日から31年6月の定時評議員会まで）
なお、田中優子評議員、濱田純一評議員は、平成27年6月25日の満了をもって退任。

ウ 審査委員の委嘱

（ア）第26回理事会（平成27年7月17日）において、審査委員会委員長
の指名と審査委員会委員の委嘱を行なった。

助成審査委員会委員長（人文社会・文化）
黒崎 政男 氏（東京女子大学教授）

助成審査委員会委員（人文社会・文化）

山口 いつ子氏（東京大学大学院教授）

安齋 尚志 氏（日本放送協会理事）

放送文化基金賞審査委員会委員

坂本 忠宣 氏（日本放送協会理事）

（任期は、平成 27 年 7 月 18 日から 28 年 3 月 31 日まで）

なお、濱田純一委員長、下川雅也委員、木田幸紀委員は、平成 27 年 7 月 17 日付で退任。

（イ）第 29 回理事会（平成 28 年 2 月 12 日）において、審査委員会委員を次のとおり委嘱した。

助成技術開発審査委員会

委員長 今井 秀樹 氏（東京大学名誉教授）

一方井克爾 氏（TBS テレビ技術局長） 新任

伊東 晋 氏（東京理科大学教授）

白井 克彦 氏（放送大学学園理事長）

浜田 泰人 氏（日本放送協会理事・技師長）

助成人文社会・文化審査委員会

委員長 黒崎 政男 氏（東京女子大学教授）

安齋 尚志 氏（日本放送協会理事）

安藤 裕康 氏（国際交流基金理事長）

佐藤 卓己 氏（京都大学大学院教授）

白石 さや 氏（東京大学名誉教授）

山口いつ子 氏（東京大学大学院教授）

放送文化基金賞審査委員会

委員長 吉田 喜重 氏（映画監督）

青木 隆典 氏（日本民間放送連盟常務理事）

河合祥一郎 氏（東京大学大学院教授）

金田一秀穂 氏（杏林大学教授）

河野 尚行 氏（放送批評家）

坂本 忠宣 氏（日本放送協会理事）

羽鳥 光俊 氏（東京大学名誉教授）

堀川とんこう 氏（演出家）

（任期は、いずれも平成 28 年 4 月 1 日から 30 年 3 月 31 日まで）

なお、豊中俊榮委員は、平成 28 年 3 月 31 日付で退任。

平成 28 年 3 月 31 日現在の役員、評議員、審査委員は、資料のとおりである。
（役員、評議員、審査委員一覧 資料 4）

（2）理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
平成 27. 6. 10 (第 23 回)	・ 平成 26 年度事業報告および決算について ・ 任期満了に伴う役員候補者の推薦について ・ 任期満了に伴う評議員候補者の推薦について ・ 第 41 回「放送文化基金賞」表彰対象について ・ 平成 27 年度助成要項について ・ 助成費用準備資金規程等の設定について
平成 27. 6. 22 (第 24 回) 書面による決議 省略	・ 理事長、専務理事の報酬について
平成 27. 6. 25 (第 25 回)	・ 理事長及び専務理事の選定について
平成 27. 7. 17 (第 26 回)	・ 審査委員、審査委員長の委嘱について ・ 技術開発審査委員会専門委員の委嘱について ・ 契約職員就業規則の改正について

平成 27. 10. 2 (第 27 回)	・ 第 14 回評議員会の開催について ・ 平成 27 年度事業活動収支施行見込みについて ・ 平成 26 年度助成の取消について ・ 「8 K シンポジウム」開催準備状況について ・ 事務局職員の処遇改善について
平成 27. 12. 1 (第 28 回)	・ 平成 28 年度予算編成の考え方について ・ 第 42 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 技術開発審査委員会専門委員の委嘱について ・ 特定個人情報取扱規程等の整備について
平成 28. 2. 12 (第 29 回)	・ 第 15 回、16 回評議員会の開催について ・ 平成 27 年度助成の実施について ・ 平成 28 年度事業計画と収支予算の編成について ・ 平成 28 年度資産運用計画について ・ 審査委員会委員の委嘱について ・ 放送文化基金賞審査委員会委員の委嘱について ・ 助成規程の一部改定について

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
平成 27. 6. 25 (第 13 回)	・ 平成 26 年度事業報告および決算について ・ 第 41 回「放送文化基金賞」選考結果 ・ 任期满了に伴う役員の選任について ・ 任期满了に伴う評議員の選任について ・ 理事長、専務理事の報酬について
平成 27. 12. 1 (第 14 回)	・ 平成 27 年度収支見通しおよび平成 28 年度予算編成方針について ・ 事業の執行状況について

平成 28. 3. 10 (第 15 回)	・平成 28 年度事業計画と収支予算の編成について ・平成 27 年度助成の実施について ・事業の執行状況について
--------------------------	---

Ⅲ 付属明細書（資料 1～4）

平成27年度 助成対象一覧

研究課題	研究機関	助成額(円)
高画質で省電力な反放射型フレキシブル液晶ディスプレイに関する研究	反放射型フレキシブル液晶研究グループ 代表 石崎 隆宏 (東北大学大学院 准教授)	285
視覚補助機能を有するフラットパネル型立体シースルードisplayの研究開発	東京農工大学大学院工学研究院 教授 高木 康博	300
同一周波数帯域を識別する人工周知構造メタサーフェス	名古屋工業大学 テニシアトラック助教 若手 弘樹	300
放送の双方方向性向上のための UHF およびミリ波帯アンテナの研究	鹿児島大学工学研究院理工学専攻 助教 吉田 賢史	270
高い周波数利用効率を達成する次世代衛星放送システムの物理レイアウト設計	横浜国立大学大学院工学研究院 教授 若手 秀樹	150
8K 衛星放送の高画質化のためのマルチキャリア伝送方式の研究	東京理科大学理工学部 教授 伊藤 隆	265
放送と通信の多元同期および表示方法に関する研究	愛媛大学大学院理工学研究科 教授 藤田 欣裕	220
統計モデルに基づく歌声合成システムを用いたユーザによるコンテンツ生成に関する研究	名古屋工業大学大学院工学研究科 教授 徳田 恵一	150
高画質音響システムのための簡易設置方式と簡便なアップミックス手法の検討	東京藝術大学音楽学部 教授 亀川 徹	120
8K 時代に求められるテレビインタフェースに関する研究	東京都市大学メディア情報学部 教授 八木 伸行	150
全天周コンテンツのための注視誘導技術の開発	東京大学大学院情報理工学系研究科 助教 藤澤 拓志	210
パブリック&パーソナル評価予測に基づく教育系コンテンツの解析	東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授 山崎 俊彦	250
より自然な立体感を運動映像で表現するための画像要因に関する研究	徳島大学大学院シオテクノサイエンス研究部 講師 水村 順樹	230

計 2,900 万円

研究課題	研究機関	助成額(円)
多文化社会・多元的価値社会における表現の自由—イギリスにおける放送局動向規制を題材として—	大阪大学大学院法学研究科 招へい研究員 村上 玲	50
タカリコール問題に関する米公聴会とそのニュース報道の検討分析	大阪大学大学院言語文化研究科 講師 岡田 悠佑	30
アパルトヘイト体制下の南アフリカにおける民族語ラジオ放送の役割—解放戦争との関連で—	津田塾大学大学院国際関係学専攻 後期博士課程 河野 明佳	80
中国における抗日映画・テレビドラマの歴史と現在および対日感情に与える影響に関する調査研究	内閣大学大学院新聞出版学専攻 講師 兵軍	50
韓国 EBS と日本の NHK の児童を対象にした英語教育番組に関する調査	Institute of Asian Children's English Television Programs 代表 カレラ知子 廣子 (横浜国立大学 准教授)	50
子ども向けコマースチャンネルに対する母親の態度の調査	武蔵大学大学院人文科学研究所 博士後期課程 前井 遥也	30
監室関係番組の歴史的変遷	神戸大学大学院文学部 准教授 河西 秀哉	25
続・過去 50 年の番組企画書・広報資料からのテレビ番組史研究	阪南大学国際コミュニケーション学専攻 教授 大野 茂	50
実相寺塔婆鑑賞が手掛けた音楽番組の演出手法の調査・研究・Web 公開	実相寺塔婆資料アーカイブとテレビ放送研究会 研究員 堀井 匠哉 (上智大学 教授)	110
娯楽としてのテレビ (2) —今野勉 視覚的デジタル・アーカイブ構築—	情報科学芸術大学院大学 准教授 松井 茂	60
日本における放送アーカイブの整備・利活用に関する研究	放送アーカイブズ研究会 代表 音 好宏 (上智大学 教授)	60
脚本活用によるアクティブラーニング及び昭和時代の脚本への活用	日本脚本アーカイブ推進コンソーシアム 代表理事 山田 太一	150
アルメニアの歴史的映像のアーカイブ化研究	アルメニア公共放送 副会長 Haroyan Liana	100
国際共同製作を推進する Tokyo Docs 2016 の開催	Tokyo Docs 実行委員会 委員長 天城 勲彦 (NPO法人 東京TVフォーラム 理事長)	200
ベトナム・ハノイ地区におけるメディア・コンテンツの動向調査並びに日越学生による国際共同制作	Tokyo-Hanoi Media Culture Collaboration 代表 川島 高雄 (明治大学 准教授)	70
日本の放送番組利用による発展途上国の人材育成研究会	放送番組利用による発展途上国の人材育成研究会 代表 岩間 寿孝 (一般社団法人 岡山県文化協会 会長)	280
もつと知りたいたい放送の仕事 〜子供向け放送体験教室〜	公益財団法人 放送番組センター 常務理事 松浦 晃	130
とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会 秋の祭典「おとぎの国」による友好親善の海外への発信	とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会 会長 吉田 景 (一般社団法人 岡山県文化協会 会長)	230
「淡路人形浄瑠璃」草加公演 2016	公益財団法人 草加市文化協会 理事長 長谷部 健一	90
佐藤芸能「文楽」—地方公演 2016—	公益財団法人 文楽協会 理事長 山口 昌紀	100
スリランカ・ドキュメンタリー・ワークショップ等の開催を通しての南アジア番組制作者の制作能力向上	アジア太平洋放送連合 (ABU) 番組局長 紅粉 運次	155
ワークショップ：市民の問題を草の根の人々に伝えるためのラジオドラマ	CCD バングラデシュ 所長 Mourtoza Golum	60
ジャーナリスト向け地域ワークショップ：災害リスクを軽減する報道	アジア太平洋放送開発機構 (AIBD) 所長 Chang Jin	160

(所屬などは平成 28 年 2 月 17 日現在)

合計 45 件 5,950 万円

第41回「放送文化基金賞」受賞一覧

(資料2)

部 門	賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	最優秀賞 (100万円)	NHK ETV特集 葉禍の歳月～サリドマイド事件・50年～
		優秀賞 (50万円)	テレビユー福島 TUFルポルタージュ ふつうの家族 ある障がい者夫婦の22年
		(30万円)	NHK福岡放送局、NHK長崎放送局 NHKスペシャル 知られざる衝撃波～長崎原爆・マッハシステムの脅威～
		奨励賞 (30万円)	NHK広島放送局 NHKスペシャル 水爆実験 60年目の真実 ～ヒロシマが迫る“埋もれた被ばく”～
		(30万円)	テムジン、NHK、NHKエンタープライズ BS1スペシャル 女たちのシベリア抑留
	テレビドラマ番組	最優秀賞 (100万円)	テレビ朝日 相棒 season13
		優秀賞 (50万円)	NHK 土曜ドラマ 55歳からのハローライフ
		(30万円)	テレビ朝日 松本清張二夜連続ドラマスペシャル「坂道の家」
		奨励賞 (30万円)	WOWOW 土曜オリジナルドラマ 連続ドラマW グーグーだって猫である
	テレビエンターテインメント番組	最優秀賞 (100万円)	テレビ朝日 しくじり先生 俺みたいになるな!!
		優秀賞 (50万円)	テレコムスタッフ、NHK、NHKエンタープライズ 秋の文学スペシャル 漱石「こころ」100年の秘密
		(30万円)	テレビせとうち おばあちゃんの台所
		奨励賞 (30万円)	TBSテレビ 6人の村人!全員集合
	ラジオ番組	最優秀賞 (100万円)	山形放送 YBCラジオスペシャル 花は咲けども～ある農村フォークグループの40年～
		優秀賞 (50万円)	東海ラジオ放送 大須演芸場盛衰記～笑ってさよなら
		奨励賞 (30万円)	琉球放送 RBCiラジオスペシャル 学童疎開船・対馬丸撃沈70年
		演技賞 (20万円)	柄本 明 「松本清張二夜連続ドラマスペシャル 坂道の家」
		演技賞 (20万円)	宮沢りえ 「連続ドラマW グーグーだって猫である」
		演出賞 (20万円)	石原大史 「葉禍の歳月～サリドマイド事件・50年～」
		構成作家賞 (20万円)	横野太紀 「しくじり先生 俺みたいになるな!!」
		企画賞 (20万円)	島袋千恵美 「RBCiラジオスペシャル 学童疎開船・対馬丸撃沈70年」
個人・グループ部門	放送文化	(30万円)	三村忠史 (NHK チーフ・プロデューサー) 優れた調査報道番組の制作
		(30万円)	八木康夫 (TBSテレビ 執行役員・プロデューサー) 長年プロデューサーとして優れたテレビドラマを制作
		(30万円)	『世界遺産』制作チーム (TBSテレビ) 20年にわたる最新放送技術への挑戦
		(30万円)	全国ラジオ・チャリティ・ミュージックソン実行委員会 (ニッポン放送 他) 40年にわたるチャリティ番組の放送・活動
	放送技術	(30万円)	周波数移行プロジェクトチーム 代表 青木良太 (フジテレビジョン) 1.2GHz/2.3GHz帯 受信アンテナの開発
		(30万円)	ハンディカメラ対応バーチャルスタジオ開発グループ 代表 加藤大一郎 (NHK) 小型姿勢センサーを用いたハンディカメラによるバーチャルスタジオの開発と実用化
		(30万円)	放送事業用連絡無線音声改善技術開発グループ 代表 牧野鉄雄 (日本テレビ放送網) デジタル連絡無線音声改善技術の開発

*番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

他の賞への参加結果について

1. 2015 年 A B U 番組コンクール

<テレビ 8 部門に 154 作品、ラジオ 7 部門に 92 作品が応募>

※ 放送文化基金は、ラジオとテレビのドラマ部門のスポンサー

表 彰 日 平成 27 年 10 月 30 日

場 所 トルコ・イスタンブール

受賞作品 ○ラジオ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000 ドル)

『FMシアター 真昼の流れ星』

(NHK/日本)

○テレビ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000 ドル)

『Three Fish』

(イラン・イスラム共和国国営放送/イラン・イス
ラム共和国)

2. 第 4 2 回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

<企画部門への参加は 36 機関、46 企画>

表 彰 日 平成 27 年 10 月 22 日

場 所 NHK放送センター 1 階 1 0 1 スタジオ

受賞企画 『ルイスとロバの英語教室』

(賞金 10,000 ドル)

マリア・ディアス氏

(アニメトロポ/コロンビア)

※ 企画は番組化し、コロンビア国内で放送される予定。また、平成
2 8 年開催の「日本賞」コンクール開催期間中に上映される予定

3-1. 第 4 0 回創作テレビドラマ大賞

<応募総数 1,013 編から、大賞 1 編、佳作 1 編、奨励賞 2 編が決定>

表 彰 日 平成 27 年 11 月 12 日

場 所 アルカディア市ヶ谷

大賞作品 『あなたにドロップキックを』 中谷典子 (賞金 50 万円)

3-2. 第 4 4 回創作ラジオドラマ大賞

<応募総数 302 編から、大賞 1 編、佳作 2 編が決定>

表 彰 日 平成 28 年 3 月 25 日

場 所 市ヶ谷・日本放送作家協会会議室

大賞作品 『佐恵子の話』 湯川立子 (賞金 50 万円)

公益財団法人 放送文化基金
役員、評議員、審査委員 一覧

(資料4)

○ 役 員

理 事 長(非常勤)	末 松 安 晴	東京工業大学名誉教授
理 事(非常勤)	藤 井 宏 昭	国際交流基金顧問
理 事(非常勤)	箕 浦 康 子	お茶の水女子大学名誉教授
理 事(非常勤)	大 石 芳 野	写真家、日本大学客員教授
理 事(非常勤)	濱 田 純 一	東京大学名誉教授
専務理事(常 勤)	崎 元 利 樹	元日本放送協会大阪放送局長
監 事(非常勤)	清 水 孝 雄	TBS社友
監 事(非常勤)	竹 村 範 之	日本放送協会経営企画局長

○ 評 議 員

青 木 隆 典	日本民間放送連盟常務理事
青 木 保	国立新美術館館長
池 辺 晋 一 郎	作曲家
板 野 裕 爾	日本放送協会専務理事
上 田 良 一	日本放送協会経営委員会委員
小 田 島 雄 志	東京大学名誉教授
音 好 宏	上智大学教授
加 藤 剛	俳優
マーシャ・クラッカー	聖心女子大学教授
今 野 勉	演出家、脚本家
鈴 木 幸 一	インターネットイニシアティブ代表取締役会長CEO
高 島 肇 久	海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長
遠 山 敦 子	トヨタ財団理事長
長 尾 真	前国立国会図書館長
中 村 桂 子	JT生命誌研究館館長
西 條 温	日本ケーブルテレビ連盟理事長
長 谷 部 恭 男	早稲田大学大学院教授
羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
福 地 茂 雄	新国立劇場顧問
向 井 千 秋	宇宙航空研究開発機構特任参与
榎 井 勝 人	日本放送協会会長

○ 助 成 審 査 委 員

技 術 開 発	委員長／今 井 秀 樹	東京大学名誉教授
	委 員／伊 東 晋	東京理科大学教授
	白 井 克 彦	放送大学学園理事長
	豊 中 俊 榮	TBSテクス取締役会長
	浜 田 泰 人	日本放送協会理事・技師長

人 文 社 会 ・ 文 化	委員長／黒 崎 政 男	東京女子大学教授
	委 員／安 齋 尚 志	日本放送協会理事
	安 藤 裕 康	国際交流基金理事長
	佐 藤 卓 己	京都大学大学院教授
	白 石 さ や	東京大学名誉教授
	山 口 い つ 子	東京大学大学院教授

○ 放 送 文 化 基 金 賞 審 査 委 員

委員長／吉 田 喜 重	映画監督
委 員／青 木 隆 典	日本民間放送連盟常務理事
河 合 祥 一 郎	東京大学大学院教授
金 田 一 秀 穂	杏林大学教授
河 野 尚 行	放送批評家
坂 本 忠 宣	日本放送協会理事
羽 鳥 光 俊	東京大学名誉教授
堀 川 と ん こ	演出家

(平成28年3月31日)